

札幌ホーネッツ初優勝

初出場で 北海道勢としても初

全日本クラブ野球

第28回全日本クラブ野球

球選手権(日本野球連盟、毎日新聞社主催)は最終日の7日、西武ドームで準決勝、決勝を行い、3試合連続の逆転勝利で決勝進出を決めた札幌ホーネッツ(北海道)が、13年ぶり2回目の優勝を目指した静岡硬式野球倶楽部(静岡)に競り勝ち、初出場初優勝を果たした。北海道勢の全国制覇は初。最優秀選手賞は札幌の明石昌与外野手、敢闘賞は静岡の金田穂波投手が選ばれ、首位打者賞は札幌の宮越栄治内野手が18打数9安打(5割)

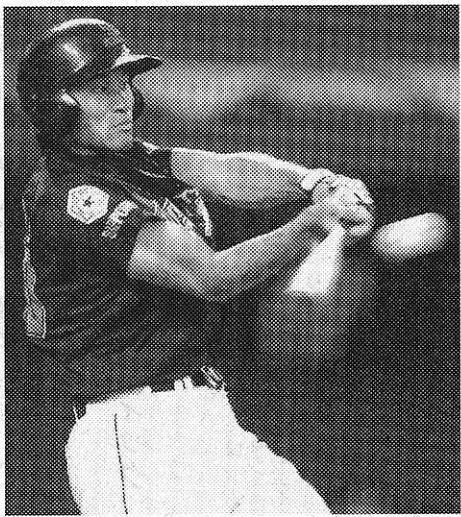
で獲得した。また3勝を挙げた札幌の沢田真一投手に優秀投手賞、小人数ながらユニークな応援を繰り広げた札幌の応援団に特別賞が贈られた。

▽決勝
札幌ホーネッツ(北海道) 102000032008
静岡硬式野球倶楽部(静岡) 000300000003

札幌が、沢田の粘投と明石の長打力で競り勝った。同点で迎えた七回、連続安打で勝ち越し機を作り、明石が右中間に2点三塁打した。静岡は四回、敵失や野選などで3点を挙げ同点としたが、その他の回は沢田の速球に押され1安打。反撃機をつくれなかった。

▽準決勝

静岡硬式野球倶楽部 00001000000123
全日利クラブ(栃木) 00010000000123
(延長十回)
(静)金田一栗城(足)小口、渡辺一松島



【札幌ホーネッツ・静岡硬式野球倶楽部七回表札幌無死一二塁、明石が勝ち越しの右中間適時打】山本晋写す

点	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
安打	4	2	2	2	0	0	0	1	1	0	0
打数	5	4	5	4	3	5	3	2	3	3	3
越野	石野	島成	野田	堀山	木宮	大明	金中	吉勝	山	札幌	ホーネッツ
計	3	4	1	2	6	3	4	1	2	6	5

点	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
安打	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0
打数	4	4	3	4	4	4	2	0	4	2	2	2
越野	石野	島成	野田	堀山	木宮	大明	金中	吉勝	山	札幌	ホーネッツ	
計	3	3	4	1	2	6	3	4	1	2	6	5

楽しみながらも勝ちにこだわり

3試合逆勝ちで勢いに乗った平均年齢22歳の若いチームが北海道に初の優勝をもたらした。

4打点の活躍で最優秀選手に選ばれた真駒内中学校教育の明石は「いや、もう言葉に表せない感激。生徒になって言おうかな」と破顔。

「初出場初優勝を目標に大会に臨み、それが実現できて最高」。2日間で3試合(21回)に登板し計359球で3勝を挙げた沢田は、童顔に生えた無精ひげをなでながら白い歯をこぼした。

併	3	7	0	1	2	4	8	1	1	2	4	0	0
失	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
盗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
逸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

6年前に社会人球界では珍しいNPO法人として設立した新しい形のクラブ。来年、地元の本拠地を移すプロ球団に入るのが夢、と話す沢田。企業チームの減少で、実力選手がクラブチームで次のステップを目指す構図が増えている。

投手力を中心に、戦力アップが図られているクラブ野球の流れを先取りしたようなチームの勝利。高橋一彦監督は「野球を楽しむながら、かつ勝利にこだわる。この難しい課題をベンチと応援団全員が一体となつてつかんだ。感無量です」。日本一になつても翌日

の就業を休むことはない。最終便の飛行機に間に合わせるためチームは喜びの表彰式もそこで勝利の舞台を去った。

【海老名富夫】